

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やすらぎ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200303		
法人名	社会福祉法人紫波会		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地	〒028-3307 岩手県紫波郡紫波町桜町字三本木46-1		
自己評価作成日	令和2年5月20日	評価結果市町村受理日	令和2年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域に溶け込めるよう、積極的に地域の行事に参加したり、地域の方が気軽に施設を訪れやすいような開かれた環境を作っています。今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため、「やすらぎ珈琲館」の開催を見合わせていますが、平成23年度から地域の方にも気軽に来場いただけるよう年に数回カフェを開催しています。はじめは数人の来場者でしたが、回覧板でのお知らせや、運営推進員の地域への呼びかけもあり昨年は1回の来場者数も60人と大盛況となっています。また、就労支援施設「けやき学園」に売店コーナーを開催していただき、プリントTシャツや花苗などの販売や、スタッフとして一緒に活動することで賑わいが増えています。やすらぎに入居している方も、知り合いや家族と一緒に過ごす良い機会となっています。散歩途中や病院の受診で声をかけていただいたり、「庭の花がきれいに咲いたから見に来て」と連絡をいただいたこともありました。交流している小学校にマスクを作り送っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地域医療センター(県立)に隣接し、同法人が運営する特別養護老人ホーム・デイサービスセンター、居宅介護支援事業所、高齢者生活福祉センター「こもれび」(町から指定管理を受託)など、町の医療・介護の拠点地域に位置している。地域行事に積極的に参加し、地域住民との交流の場「やすらぎ珈琲館」や「さんま祭り」を開催し、地域の一人として大きな役割を果たしている。理念「ゆっくり・いっしょに・笑顔で」に基づき、利用者のペースに併せ、持っている能力を引き出す様々な工夫をし、家族とのつながりを大切に、健やかな生活の維持に努力している。災害への危機意識が高く、火災・水害・地震の想定訓練に加え、本年5月にはコロナ感染対策の訓練を実施して課題を把握し、改善に取り組んでいる。かかりつけ医や家族と共に看取りに取り組み、手厚いケアを提供している。所長を始め、管理者・職員が一丸となって、利用者の生活の質の向上に熱意をもって創意工夫を凝らした運営がなされている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年7月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やすらぎ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	やすらぎの職員会議にて、毎年1回、やすらぎの理念である「ゆっくり・いっしょに・笑顔で」の意味を話しあい、利用者さまへの対応に即しているか確認しています。また、法人の運営理念についても理事長の年頭挨拶でみんなで唱和しています。	法人の基本理念と、グループホームやすらぎの理念「ゆっくり、いっしょに、笑顔で」を、年度当初に唱和し確認している。ホールと事務室に理念を掲示している。管理者は、理念に沿ったケアを提供しているか、職員の声や姿勢、表情等、利用者の様子を観察し、必要な時はさりげなく注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としてクリーン作戦に参加しています。また、傾聴ボランティアを要請し、地域の方と会話交流する機会を設けています。	地域のクリーン作戦や防災訓練(今年の開催は未定)に、利用者と一緒に参加している。町社協所属の傾聴ボランティアが月2回来所し、利用者に寄り添い話を聴いており、利用者の満足度は高い。事業所主催の「やすらぎ珈琲館」や「さんま祭り」で、地域の方々と交流している。管理者は、「さんま焼き師」の資格を取得しており、万全の体制で臨んでいるが、今年はコロナ感染の影響で開催を見合わせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政の地域支援相談員と一緒に「認知症なんでも相談所」を月、1回のペースで開催しています。町内のGH3か所まで交代して行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では必ず外部評価の結果報告を行わない、やすらぎの取り組みについて見直し、今後のサービス向上に努めています。	運営推進会議は、地区長、公民館長、民生委員、家族代表、役場職員、介護相談員を委員とし、年1、2回は利用者も参加している。委員から「やすらぎ珈琲館」の開設や避難訓練への協力、家族の「看取り体験報告」の提案があり何れも具体化している。他事業所の視察研修(身体拘束・権利擁護をテーマ)は、委員と職員の交流の機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて日ごろの活動や取り組みについて報告し、やすらぎの事業について理解をいただいています。	運営推進会議に町担当課職員と介護相談員が参加しており、運営状況や利用者の活動を理解していただいている。担当課とは、要介護認定の更新申請等で、随時連絡を取り合っている。介護相談員は、2か月に1回の割で来所し、利用者の希望を聞くなどしている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やすらぎ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やすらぎ会議の中で、身体拘束による弊害について勉強会を開催しています。また、職員が身体拘束体験を行い、拘束による苦痛を体験しています。身体拘束「0」の手引きを活用し、代替えケアにて対応しています。	身体拘束廃止の指針を策定し、身体拘束廃止推進委員会を年4回開催している。定期的に研修会を開催し、職員の拘束体験や身体拘束ゼロの手引きを活用したケアについて学んでいる。法人全体の研修会で、事業所の取り組みを発表している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束とともにやすらぎ会議で勉強会を行い、虐待防止の意識を高め、業務の中でそのような対応が無いよう注意しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料の読み合わせ程度ですが、今後、独居の認知症の方も増える傾向にあるので、日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強する機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居調査の際に、再度やすらぎの生活や職員体制・利用料・設備等を説明し理解をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	紫波町の介護相談員が毎月やすらぎを訪問し、入居者さまから話を聞いています。やすらぎの行事にも参加していただき、ご家族と気軽に話ができる機会を設けています。	運営推進会議に家族代表が参加している。年2回家族会を開催しており、今回(8/31予定)は、看取りを実施した家族の希望で、看取りについてその家族を講師としてお話を伺う予定である。利用者の意見等は、日々の生活の中で職員との会話やモニタリング会議で聞いている。数年前から、利用者の希望で週刊誌を定期購入し、現在も継続している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から何でも話しができる関係を築くよう心がけています。	全職員参加のやすらぎ会議（職員会議、ほぼ2時間）を毎月開催し、業務連絡、カンファレンス、勉強会を行っている。毎日の申し送り時にも、職員から意見要望を聴いている。所長との個人面談を年1回実施し、職場環境や運営について話し合いをしている。最近、職員のユニホームの購入を一任され、話し合いで可愛いデザインのポロシャツとしたばかりとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施し、本人の意欲や向上心を上司に伝え、やる気が上がるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、法人の新人研修を実施し、所長をはじめ事務長・経理部長が法人全体の運営に関わる内容を説明し、各事業所の代表が講師になり、特徴や仕事に対するモチベーションについて話しています。新人研修は途中採用者もいるので、春と秋に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「岩手地域密着サービス協会」の実践報告会や研修に参加し、他事業所の取り組み等参考にしています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにセンター方式を活用し、入居者本人のサービスを提供できるよう今までの生活を知るようにしています。また、そばに寄り添い会話をし、困っていることがないか聞いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に添えるよう、入居前にも話を聞いています。今後の希望も伺い、特別養護老人ホームに入居を希望する方は、順番が来たときはスムーズに異動できるよう協力することを伝えていきます。		



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	やすらぎ入居の順番が来た時に、現在の状況を確認し、介護サービスを使いながら在宅生活がうまくできている場合は入居をもう少し見送ってはどうかと提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	干し柿づくりやみずき団子作りは入居者の経験・知識を活かし職員が教わりながら行います。毎日の掃除や食事作りなどできることは一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会ができない状況の中、毎月の介護明細と共に、本人の様子を担当職員から手紙で報告しています。ケアプラン作成時にご家族からの要望・意見を伺っています。通院をご家族がしてくれたり、受診後にご家族に電話で内容を報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限の中生活の様子をご家族や地域の方々に広報を通じ日ごろの様子をお伝えしています。面会制限がない時期は自由に出かけられるので、買い物やご法事などご家族と出かける方もいます。	家族との関係を大切にしているが、コロナ感染対策で、家族とはオンラインによる面会となり、家族との外出の機会も減少している。家族には、毎月、介護明細と日々の介護日誌の写し、「やすらぎ広報」を届け、ホームでの生活を伝えている。傾聴ボランティアや介護相談員、訪問理容師等、新たな馴染みの関係も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声を掛け合い、笑顔で会話する様子も見受けられます。その反面、些細なことでトラブルになることもあります。職員が間をうまく取り持つようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やすらぎから特養へ移った方には面会に行くこともあります。また、退所後も再入居申し込みの方には随時、様子を伺い今の状況を把握することにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントでセンター方式を活用し、生活歴をふまえ、本人や家族の意向を聴いています。日常会話からも思いをくみ取り、ケアに取り入れています。	アセスメント時、センター方式を活用し、生活歴や家族の事情、馴染みの事柄、利用者の意向等、きめ細かく把握するよう努めている。日常会話からも思いを汲み取り、ケアに取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報を基にご家族とご本人に直接話を聞いたり、日常生活の中での行動からなじみの暮らしぶりを把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話やレク活動を行い、残存機能の情報収集や維持に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとの定期的なカンファレンスのほか、状態が変化したときに必要に応じて、随時カンファレンスを開催し、適切な介護計画を作成しています。	入居時のプランは1か月でモニタリングし、その後3か月毎に担当者によるモニタリングと、家族が入ったアセスメントを行い、医師の意見も盛り込んで介護計画を作成している。サービス担当者会議には、本人も参加している。利用者の状態に変化があった場合は、その都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の声掛けや、情報の共有、職員会議を利用し、入居者の情報把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人として、就労準備支援ボランティア事業や、買い物支援事業を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のクリーン作戦やお祭り、訪問ボランティアの踊りや民謡など見学し、やすらぎの母体であるにいやま荘の入所者や職員とも交流しています。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やすらぎ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続し、本人や家族も安心して診ていただくことができます。家族の希望により、訪問診療の先生に主治医を変更する場合がありますが、看取り対応も可能です。	入居前のかかりつけ医を継続している利用者は4名で、訪問診療(月2回)利用者は5名である。かかりつけ医や専門診療科の通院は職員が付添い、家族に結果を報告している。歯科は往診で対応している。各医師と連携を図り、適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期的健康チェックを受けることができます。アドバイスいただき、職員で周知できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院・退院までの過程で病院の相談員から直接連絡をいただき、できるだけ早急に施設の戻れるよう情報共有しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療の医師に依頼し、看取りについての勉強会を令和元年11月24日に開催していただきました。ご家族と終末期について一緒に考える機会となりました。	看取り指針を策定している。職員・家族が参加して、訪問診療医を講師に「看取りについて」の勉強会を実施し、終末期に向けた共通認識を図っている。これまで3名の利用者を看取りしている。看取った家族から、医師・職員の対応を感謝され、この経験を話したいとの申し出があり、家族会での講演を予定している。やすらぎ会議で看取り後のケアカンファレンスを行い、職員の精神的支援に努めている。	指針の策定、医師・看護職員との連携や職員の精神的負担の軽減等、看取りの体制が整備され、看取りをしていた利用者の家族が、職員のケアに感動し体験を伝えたいと申し出るほど、充実したケアを提供している。今後とも、看取りケアの充実を図り、利用者・家族の心に寄り添った支援を続けられることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個人ごとに緊急連絡票を作成し、ファイルに綴っています。やすらぎ会議で緊急時の対応の確認や見直しを行っています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、避難訓練と備蓄品の確認を行っています。職員に異動時に連絡票やマニュアルの確認をしています。令和2年5月にはコロナウイルスの感染者が発生したとの想定で訓練を実施しました。	年3回、法人の「自衛消防隊」や運営推進会議委員の協力を得て火災・水害・地震想定避難訓練を実施している。今年5月には「新型コロナウイルス感染者発生想定訓練」を実施し、必要物品・食事提供方法・排泄介助方法の確認、クリーンゾーンの確保等の課題を検討し、危機管理に備えている。昨年は、夜間の訓練も実施している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にその方の意思を尊重し、気持ちを汲み取りながら接しています。特に排泄や入浴時のケアの場面では周囲への配慮を怠らず、プライバシーの確保に努めています。	日中、居室のドアを開放しているが、のれんで見えないようにしている。トイレ誘導の声掛けや入浴介助時には、周囲へ配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から希望される食べ物や外出さきなどお聞きするよう心掛け、その都度職員で話し合い、対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを考えながら食事・活動・入浴などの時間はなるべく本人の意思を尊重し対応しています。夜に入浴を希望される方には夕食後にお風呂に入って頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は季節に合ったものを選んでいただいたり、お気に入りの洋服は、イベントや外出時に着用しています。散髪は床屋に来ていただき、希望を伝えカットしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考え、その時に食べたいものを考えています。旬の野菜を多く取り入れ季節を感じています。各家庭の味付けもあるので味見をしていただき、好みで塩や砂糖を加えています。調理や食器拭きを一緒に行うこともあります。	ホールの新聞の広告を見て食べたいものを話題にしたり、希望を聞き、一緒に買い物に出かけている。調理に参加できるのは2名で、9名全員後片付け(テーブル拭き・食器の片付け)を手伝っている。お楽しみ昼食会で餃子パーティー、バイキング、流しソーメン、きりたんぼ作りを行っている。誕生会ではお菓子作りをし、手作りのお節やクリスマスなどの行事食を楽しんでいる。	



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの体調や嗜好に合わせ、食事形態や飲み物を変えて提供しています。水分チェック表や献立表を活用しバランス良く摂取していただけるよう努めています。にいやま荘の管理栄養士に定期的に確認していただき、アドバイスももらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや、義歯を使用している方はポリデント洗浄しています。週1回歯科医の往診があり、口腔内のチェックや治療を行っています。口腔ケアの講習会に参加し、日ごろのケアに役立っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しトイレでの排泄を支援しています。また、排泄パターンや行動を把握し、サインを見逃さないようにしています。排泄は安定した生活リズムを維持する上で重要なことを職員で共有し、対応しています。	排泄チェック表により、利用者それぞれの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。自立の方3名、リハビリパンツ使用の方6名で、夜間のポータブルトイレ利用者は4名(1人は安心のためと希望)いる。自立に向けての取り組みをしており、1名がリハビリパンツから布パンツに改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に水分摂取・乳製品の提供をし、食事では野菜を積極的に取り入れるようにしています。毎日の運動も重要なので、体操を行ったり、テンポの良い曲をかけながらホール内の歩行運動を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴しています。「入りたくない」という方には、日にちをずらしたり、同性の介護を提供するよう気を配っています。おとし設置したリフトにより、入浴が楽になったと話す方もいてゆっくり入浴できています。	月・木・土、火・金・日のパターンで、利用者は、週3回入浴できている。1人は、希望で夜間入浴している。入浴を渋る利用者は、曜日をずらしたり、柔軟に対応している。同性介助に配慮している。水曜日は入浴を休みとし、外出日に当てている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室で休まれる方、ホールでテレビを観て過ごす方、それぞれ思い思いの場所で自由に過ごしています。昼夜逆転しないように日中の活動にお誘いし、リズムを保てるようにしています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師の説明を全職員が把握するよう、申し送りの徹底とその後の観察の報告を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花壇や畑を作り、野菜を育て花が咲いたり実がなったりする様子を眺めたり、収穫して食べる楽しさを感じています。今年はイベントも縮小ですが、誕生会やバイキング食・お菓子作り・作品作りを行い、楽しい時間を設けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の要望を聞き、個別外出する計画を毎年立てています。都合が良ければご家族にも参加していただいたり、ご家族から行く場所を指定して懐かしい場所や会いたい人に会える機会を設けています。また、近隣のイベントやお祭り等あれば随時出かけています。	利用者それぞれから、行きたい所、会いたい人を聞き、個別外出をしている。利用者とその家族の2名に1名の利用者も加わって一緒に釜石線のSL銀河に乗車したり、2名の利用者が小岩井農場のイルミネーション見学など個別外出を楽しんでいる。地域のお祭りやイベントにも出かけるようにしているが、今年はコロナ感染対策で中止が多くなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者はお金を自己管理しておらず、ご家族から預かったお金は事務所で管理しています。診察代や薬代・パット購入・床屋代金の際に使用したり、外出時にジュースやアイスクリームなど購入しています。訪問産直は自分で財布を持ち、支払いをする方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればご家族に電話をかけ直接会話をしていただけます。手紙を自分で書くことはほとんどありませんが、毎年家族に出している年賀状には、コメントや自分の名前を書く方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や気候に合わせ、空調・家具の配置・掲示物を工夫し提案す。快適な空間作りを心掛けています。また、観葉植物の他、季節の花を飾り、四季を感じられるようにしています。中庭の花を取り、花瓶に飾ることもあります。	広いホールには、天窗から柔らかい日差しが差し込んでいる。ソファや食卓・椅子、テレビ等が配置され、畳のスペースもあり、利用者は好みの場所で寛いでいる。ひな祭り、七夕飾り等、季節を感じられるよう工夫している。クリスマスにはハイビスカス・ハワイ・アロハなどの演出をし、職員もアロハ姿と一緒に楽しんでいる。利用者の希望で週刊誌や新聞を購読している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中央をパーテーションで仕切り、食事スペースと活動スペースに分けています。また畳の間は外の景色を見ることができ、テレビもそれぞれの場所にあるので好きな場所でくつろぐことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用の家具やなじみの物、好きな絵やペットの写真などを自由に飾ることができ、居心地の良い居室作りができるようにしています。	各居室は、エアコン・押入れ・ロッカー・洗面台・ベッドが備え付けられ、テレビや使い慣れた家具、衣装ケース等を持ち込み、好きな絵やペットの写真を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫しているとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所で調理したり、食事を運んだり、一人で入浴できる方は安全に入ることができるように、福祉用具の活用で環境を整えています。居室入り口に名札を掲示し、わかりやすくする工夫をしています。		